



[トップ](#) [暮らしの情報](#) [文化・スポーツ](#) [生涯学習・社会教育](#)

## ひので映画大使最新版

[2019年7月29日]

### 第108回映画大使「新聞記者」

- ・ 期日 令和元年7月5日(金曜日) ※公開2週目
- ・ 場所 イオンシネマ日の出

#### 作品紹介

東京新聞の記者・望月衣塑子の同名ベストセラーを原案に『オー！ファーザー』『ダイヤモンド』の藤井道人監督が映画化した社会派ポリティカル・サスペンス。

出演は、国家権力の闇に迫ろうとする新聞記者・吉岡を『サニー 永遠の仲間たち』のシム・ウンギョンが、現政権に不都合なニュースをコントロールする任務を与えられたエリート官僚・杉原を『娼年』『孤狼の血』などに出演し、日本を代表する若手実力派俳優の松坂桃李が演じている。その他に本田翼、北村有起哉、田中哲司という、存在感のある俳優陣が共演している。

東都新聞の記者・吉岡は、政権の極秘情報の匿名ファクスを受け取り、調査を始める。かたや内閣情報調査室官僚の杉原は、国民に尽くすという信念と、現実の任務の間で葛藤する。政権が隠す闇に迫ろうとする若き新聞記者と、理想に燃え公務員の道を選んだ若手エリート官僚の対峙と葛藤を、緊迫感のあるタッチで描き出す。



(C)2019「新聞記者」フィルムパートナーズ

### 映画大使の「感動と感想」をお伝えします。

このコーナーは、映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです。

#### 映画大使の「第一声！」

- ★ 私は、息が吸えないくらい最後までどきどきしてしまいました！
- ★ 韓国のシム・ウンギョンさんと松坂桃李さんの演技が凄いなと思いました！
- ★ 松坂桃李さんは、心の葛藤の場면을うまく表現されていて、さすが演技が上手いなと思いました！
- ★ ラストシーンがとても印象的で、心に残っています！
- ★ いろいろな事を考えさせられた作品でした！



今回参加された、映画大使の皆さんです！

## 映画大使の「映画のツボ！」

---

### Aさん

韓国のシム・ウンギョンさんと松坂桃李さんの演技が凄いなと思いました。私は、シム・ウンギョンさんの事を知らなかったです。あくまで私のイメージですが、韓国の女優の方は整形をしている美人というイメージが強いのですが、この方は素朴な感じの顔で、目の力が強い演技をされていて、凄いなと思いましたね。日本ですと樹木希林さんのような感じの女優なのかなと感じました。

松坂桃李さんのラストシーンの顔が凄いなと思いましたね。

この作品で行われている事がどこまでが本当の事なのかと思ってしまう、少し怖くなってしまふところもありました。

### Bさん

私は、息が吸えないくらい最後までどきどきしてしまいました。

シム・ウンギョンさんは、演技がひょうひょうと、淡々としていながら、それでいて芯が強い所があるのですが、それを素朴に表現しているのを見まして、この人は凄いなと思いましたね。

最後のシーンはどのようにとらえればよいのかが謎で、考えさせられました。

松坂桃李さんの奥さんを本田翼さんが演じていましたが、会えなくても何があってもご主人を優しく受け止めているしぐさが、彼を救っていたような気がしましたね。

### Cさん

新聞記者というのは、真実を国民に知らせていくという使命というか本能を強くもって勤めているのかなという感じもありますね。今は情報社会ですが、その真実を見極めるのは国民であったりする事もあると思いますし、この作品を観ながら、常に問題定義をされているような感じでして、自分ならばどう判断していくか、自分ならばどう動いていくかを考えさせられました。

この作品は、このような終わり方もあるのだと思うほどでしたね。

### Dさん

普段はくだらない日常に翻弄されている私なのですが、今回この作品を観て、改めて政治とか社会とか正義に目を向けさせていただきました。昨今、日本でもありました事例を思い出させてもらえましたね。

最近、選挙などにつきましても、「何をしてもどうせかわらない」と思っていたのですが、一人で選挙でもなんでも、まじめに向き合っていかなければいけないのだなと思いましたし、些細な事で振り回されている事を反省しました。

日本では報道されない事も、諸外国では報道されている事も聞いていますし、どうなのかな、これでいいのかな、と思ったりもしますね。

### Eさん

情報社会の中で、何が正しくて、何が間違っているのか、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)で拡散された情報の全てが真実ではないと思いますし、情報が多ければ多いほど、それが真実になっていってしまう事がありえますので、その怖さを感じました。

作品のタイトルは、忘れてしまいましたが「信じたい事を信じる」というセリフだけが印象に残っていて、何が正しいのかを見極めていく力も大切だなと思いましたね。

松坂桃李さんは、心の葛藤の場面をうまく表現されていて、さすが演技が上手いなと思いました。

### Fさん

この作品は見応えがあったと思っています。

内閣府や新聞社の事を私は知らないですが、実際とは違う部分もあるとは思いますが、あのようにして仕事をしているのかなと思いましたね。内閣府と新聞記者とのせめぎ合いがあり、女性の記者の方もいろいろな事があって必死になって真実をつきとめたいと思って動いていましたが、目がとても綺麗だなと思いました。あとは、やはり新聞記者は行動力がないとダメなのかなとも思いましたね。

この作品で、3名の父親の事が描かれているのですが、3名がそれぞれ違う立場ではありますが、3名とも物凄く厳しい所で仕事をしているのだなと思いましたね。

ラストシーンがとても印象的で、心に残っています。

### Gさん

この作品には、松坂桃李さんなど、好きな俳優さんが出演されていました。

男の方は本当に重荷を背負って仕事をしているのだな、という事と、なかなか家族には仕事の事は言えないのだなと思いましたね。この作品を観まして、私も夫に、松坂桃李さんの奥さん役をされた本田翼さんのようにしてあげなくてはならなかったのだ、と思いました。

### Hさん

この作品では、真面目な公務員の方を描いていますが、私は公務員ではないのですが、昔、仕事で少し関わっていた事があるのですが、みんながみんな仕事の事で悩んでしまうような真面目な人ばかりではないような気がしますね。(笑)ですので、お子様が公務員の方も、心配されなくても大丈夫だと思います。

確か昨日だったと思いますが、この作品の原作を書かれた望月衣塑子さんがテレビに出演されていました。望月さんは新聞記者なのですが、報道された内容によっては注意をされた事もあるようですが、結構真面目な事を話されていたと思いますし、私は悪い人ではないのではないかと思います。

この作品は、今の日本の政界やマスコミが典型的に言われている事を紹介しているのではないかなと感じましたね。

映画として観ていますと、次から次へと場面が変わりますので、面白いと思いますね。

## Iさん

私は、新聞社に興味がありまして、楽しみにしていました。

人間は怖いなと思いましたね、偉くなると力でなんでもしてしまう事の傲慢さ、人間が人間でなくなってしまうのかなと感じましたね。権力を行使する気持ちよさ、何が正しくて何が間違えているのか、わからなくなってしまう、そういう怖さを感じました。そして、新聞記者は、正義を追及するのだ、という正義感を感じましたね。しかし、正義感を貫くためには、いろいろあるなと思いました。

ラストシーンを観まして、社会に働く人、男性、責任のある人は大変だなと思いましたね。

どこまでが真実で、どこからが偽りなのかという事を判断するのは難しいなと思いますね。「事実は小説よりも奇なり」という言葉がありますが、この作品ではその事を演出されたのだな、と思いました。

人間そのものが信頼関係でできあがっている社会というのは、まだまだ続くのだろうな、と思いましたね。権力の怖さを見せつけられた感じでした。

女性はやはり強いなと、思いましたね。

いろいろな事を考えさせられた作品でした。

### 作品の内容(印象に残ったシーンなど)

・ラストシーンがとても意味深でしたね！

・松坂桃李さんは、役によって変わりますよね、凄く上手だと思います！

・私は、松坂桃李さんが好きです！（女性）

・何かある時には、いろいろな事が重なるものだなと思いましたね！

・本田翼さん演じる奥さんは、松坂桃李さん演じる夫の事が本当に好きだったのだと思いますね！

### まとめ

この作品は、イオンエンターテイメントがスターサンズとともに配給をしている作品になります。

原案が、有名な東京新聞社の記者、望月衣塑子だけあって、新聞記者や新聞社の中での動き、官僚とのやり取りなどがリアルなように思えますし、監督が、『ダイヤモンド』の藤井道人監督だけあって、映像に力があり、緊迫感を感じられました。

演出も、シーンにより撮り方を変えたり、状況により画角を変えるなど、映像に工夫をしたり、伏線を上手く使っています。

大使の方からも多く意見がでましたが、松坂桃李の演技が素晴らしく、相手役のシム・ウンギョンの演技も光っていると思います。そして、松坂桃李が演じる杉原の上司、多田を演じている田中哲司の演技もこの作品で存在感を感じます。

この作品の緊迫感は、映画館で集中して大画面で観る事により大きな効果が得られるので、是非映画館の大きなスクリーンで観ていただきたいです。

映画は是非、劇場の大スクリーンでご覧ください！

映画大使では、年代も性別も違う方達が、それぞれ意見を出し合いひとつの映画について話し合うという、日ごろできない経験をすることが出来ます。映画を観て自分がこう思っただけではなく、年齢や経験などの違う人の目線で観たことを聞くことにより、違った発見があるので、ひとつの映画が何倍にも広がって行きます。

今後も「ひので映画大使」にご期待ください！！

### 関連ページ

- [これまでのひので映画大使](#)
- [ひので映画大使のトップに戻る](#)

### ご意見をお聞かせください

このページは役に立ちましたか？

役に立った どちらともいえない 役に立たなかった

このページは見つけやすかったですか？

見つけやすかった どちらともいえない 見つけにくかった

送信

### お問い合わせ

東京都 日の出町 文化スポーツ課 社会教育係  
電話: 042-597-0511(内線541) ファクス: 042-597-6698

### ひので映画大使最新版への別ルート

[トップ](#) [新着情報](#)

Copyright (C) Hinode Town All Rights Reserved.